東京の観光振興を考える有識者会議
ナイトタイム観光部会

2024年5月29日

一社)ナイトタイムエコノミー推進協議会/JNEA
齋　藤　貴　弘

ナイトタイムエコノミーの経緯

風営法改正（2011-2016）

2011年　クラブ大規模摘発
2012年　レッツダンス署名推進活動
2013年　ダンス文化推進議員連盟発足
2015年　改正風営法成立
2016年　改正風営法施行

ナイトタイムエコノミー（2016-2020）

2016年　初のナイトメイヤーサミット＠アムステルダム
2017年　ナイトタイムエコノミー推進議員連盟発足
2018年　観光庁がナイトタイムエコノミーの基礎調査
2019年　観光庁事業 ：モデル事業
文化価値調査事業（CFP）

コロナ禍（2020-2022）

・事業者やアーティストへの支援策拡充
・ナイトタイムの国際ネットワーク強化（GNRP）
・観光庁夜間早朝活用事業

ナイトタイムエコノミーの立て直しに向けて

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

ナイトタイムエコノミーの再興にむけて（2022年～）

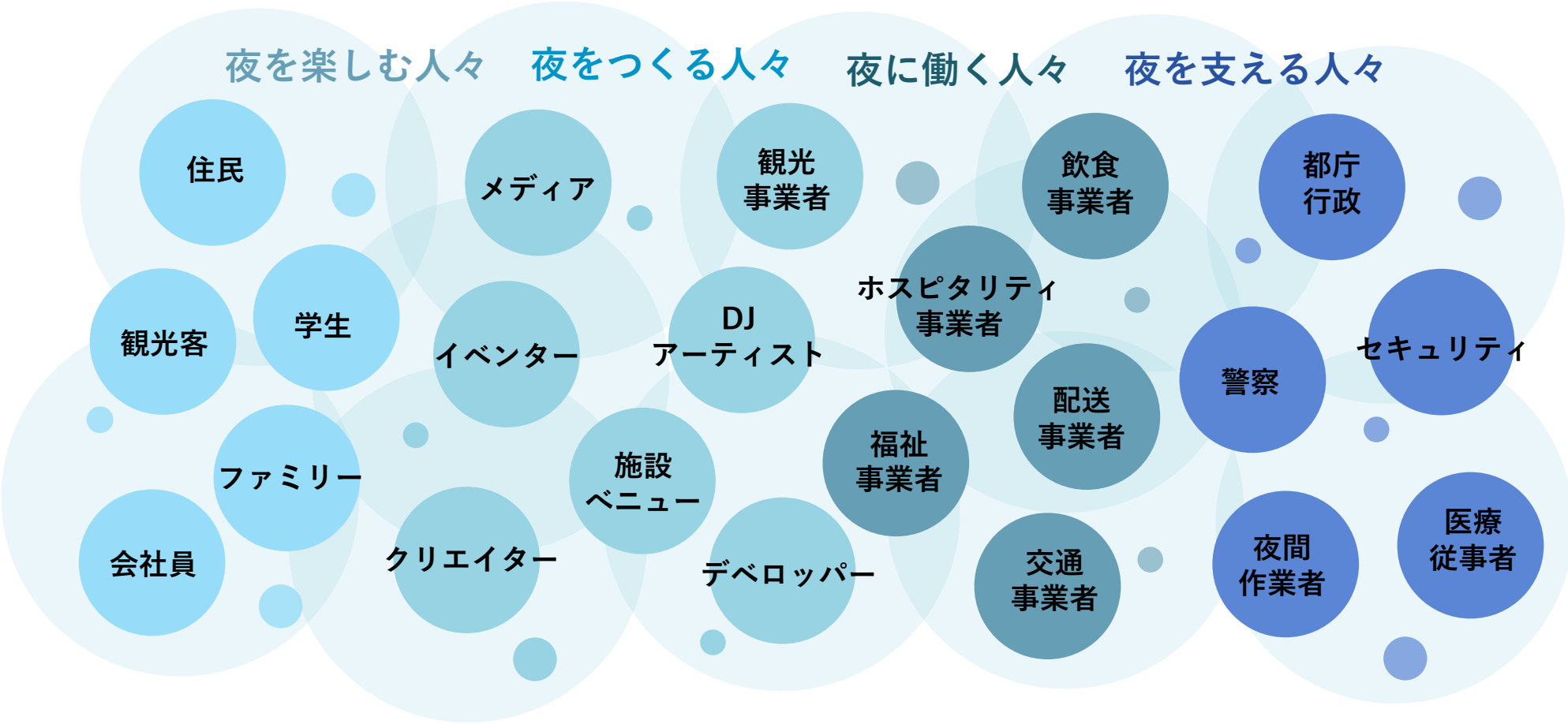
コロナ前に戻すのではなく**コロナ後の新しいナイトタイムエコノミー**を作っていくため、複数回にわたってワークショップ等を実施。
東京、京都、広島、福岡等で**まちづくり・文化・観光の様々なステークホルダー**とともに**コロナ後の夜の価値について議論を行った。**

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

ナイトタイム観光とナイトタイムエコノミー

ナイトタイム観光　＜　ナイトタイムエコノミー

ナイトタイムエコノミーの関係者の一例



©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

主な論点の検討①

【主な論点】

●**民間や地域の取組**をどのように**活性化**していくのが有効か
　・民間の取組み活性化のためには、**事業環境の整備**（法規制、夜間交通、機運醸成等）が必要
　・地域の取組み活性化のためには、**地域内の各事業者や住民の連携**が必要

●**地域住民の理解**を得ながらナイトタイム観光の振興を進めるためには何に留意すべきか
　・住民のための夜を作っていく必要（観光振興というより**まちづくり**）

●地域の実情に応じた**旅行者の安全・安心の確保**に向けて、どのように取り組むべきか
　・店舗内だけではなく、**街全体の安全・安心**を確保するためには地域連携が必要

●豊富なコンテンツ**情報を旅行者へ的確に届ける**ためには、どのような取組が効果的か
　・個々のコンテンツだけではなく、地域全体の情報を発信していく必要（**シティプロモーション**）

いずれも**個々の事業者だけでは実現困難**

行政・民間が一体となったナイトタイム推進の体制構築

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

夜間推進の仕組み構築

・海外都市は、**多様性社会の実現や国際競争力強化**という視座でナイトタイムエコノミー推進に取り組む。
・**市民の暮らし**を豊かにし、**世界から多様な人材や企業を集め**、観光等を通じて**地域経済を活性化**していくために、夜間を戦略的に活用している。

ビジョン、戦略、推進体制を行政が主導して整備

夜間推進の仕組み

1 **夜の価値/ビジョンの策定**
夜を通じて、どのような価値（文化的価値・社会的価値・経済的価値）を創出し、都市としての競争力を強化していくか？

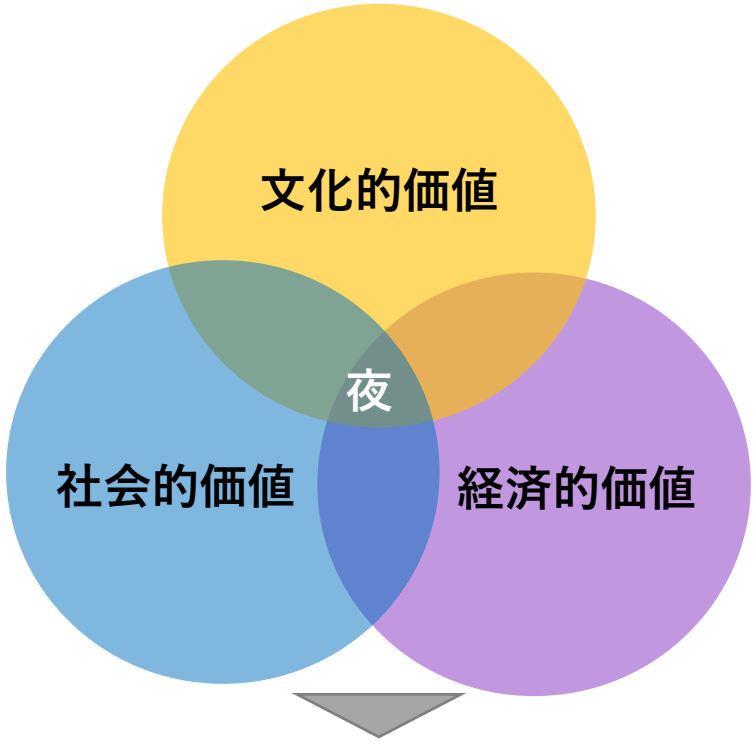
2 **戦略策定・ロードマップの立案、各種リサーチ**
ビジョンを実現していくための戦略、ロードマップは？

3 **推進体制の構築**
様々な民間ステークホルダーがどう横連携していくか？
民間では担えない役割をいかに行政が補っていくか？

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

夜がもつ価値の定義

■ 夜の価値



都市の夜における
総合的な魅力・価値向上

1．文化的価値

・様々な文化に触れ、感動や刺激、学びを得る場
・新しい地域文化を生み出し、育てていく場
・夜ならではの実験性・創造性に富む多様な表現創出の場

2．社会的価値

・昼間の属性にとらわれないフラットで意外性のある交流
・多様な才能の創発によるイノベーション
・会社とも家庭とも異なる第三の居場所（サードプレイス）
・地域コミュニティ・レジリエンスの強化/シビックプライドの醸成

3．経済的価値

・都市力の向上による地域経済活性化、高付加価値化
・消費時間の拡張による新市場の創出/雇用の創出、賃金の向上
・インバウンドニーズの受け皿・観光消費拡大
・エンターテインメント/クリエイティブ産業の育成

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

＜ロンドン＞24hour Cityビジョンの実行

【出典】MAYOR OF LONDON: 24 Hour London
https://www.london.gov.uk/programmes-strategies/arts-and-culture/24-hour-london

"From good night to great night"
すべての人を歓迎する安全で多様性に満ちた
24時間都市を実現する

2016年
ロンドンの都市ビジョン「A Vision for London as a ２４ Hour City（ロンドン 24 時間都市ビジョン）」を発表。

2017年
サディクカーン市長はこのビジョンを実行する機関を設置

●Night Czar(夜の長官)としてエイミー・ラメ氏を任命

●Nighttime Commission(ナイトタイム検討委員会)という官民一体の夜に関する検討チームを組成。
２年間におよぶ調査やヒアリング、検討会議を重ね、提言レポート『Think Night』を発表。

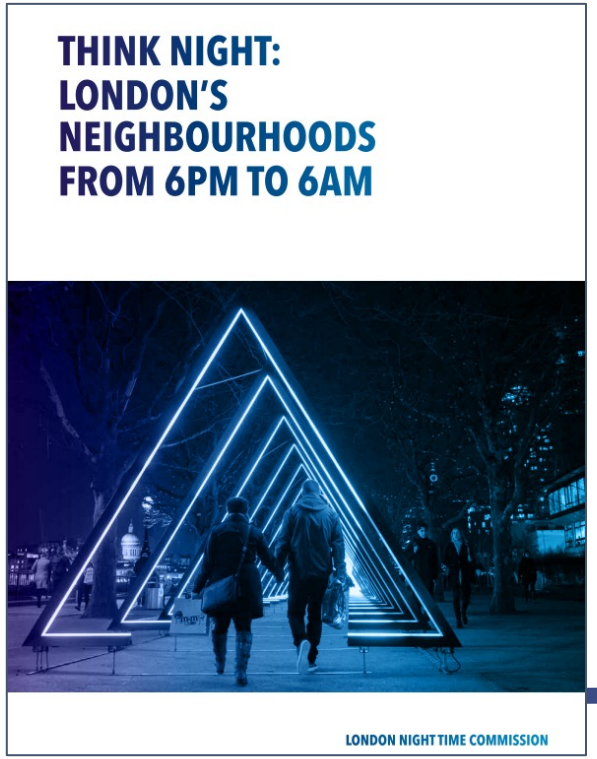
レポートはロンドン市民、夜間労働者、議会、企業、コミュニティ・グループ、公共機関、観光客等の意見をもとに作成された。

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

London Nighttime Commissionから市長への政策提言

2019年 提言レポート『Think Night： London‘s Neighbourhoods from 6pm to 6am』を発表

LONDON
Nighttime Commission



市長への提言

政策における「夜」の位置づけ

ガイドラインの策定

データ分析機関の設置

24時間都市の指標（KPI）設定

ナイトタイム促進区の導入

営業時間延長に向けたニーズ調査の実施

官民連携パートナーシップの確立

深夜交通の検討

夜間の公共空間活用に関する手引きの作成

夜間観光の促進

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

Night Time Enterprise Zone（ナイトタイム促進区）

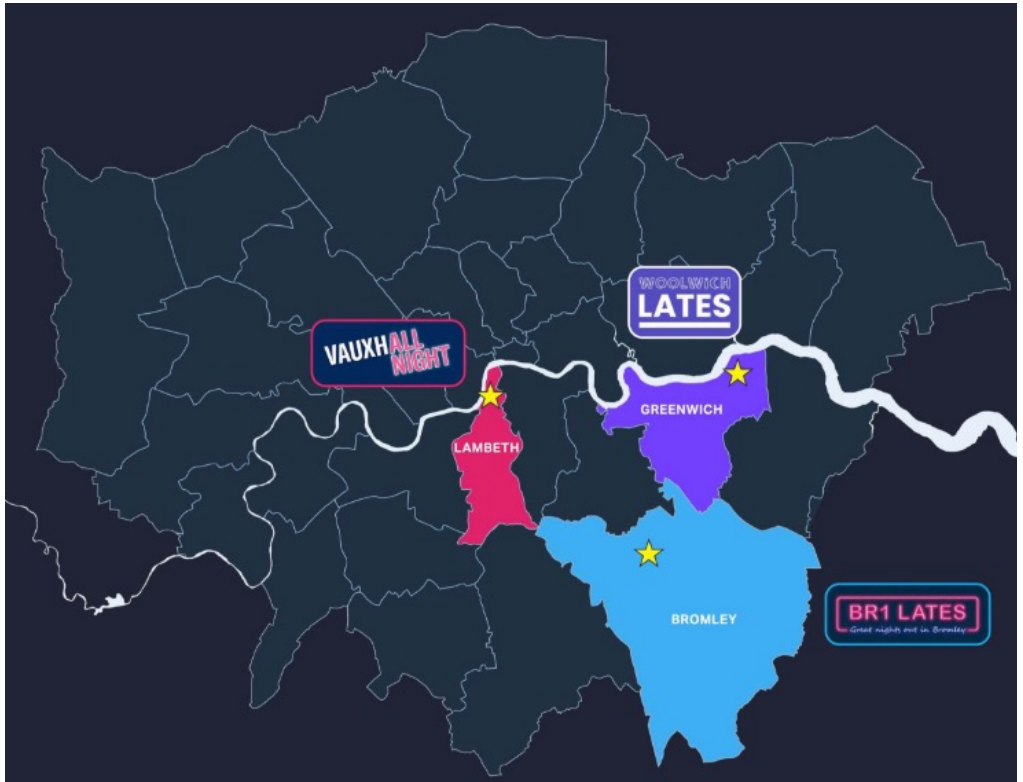
Night Time Enterprise Zones
ナイトタイム促進区

＜目的＞

1. 店舗営業時間を延長することによる収入の増加
2. 地域住民や訪問者の夜間のアクセシビリティを高める
3. 多様な人々にとってより歓迎的で包括的なストリートをつくる
4. 賃金水準を上げ、ナイトワーカーの社会的地位を高める

ロンドン市が「ナイトタイム促進」を目的とする
活動を行う自治区に助成金を付与

2019年　パイロット実験（１エリア）
2022年　本格導入：３エリア各13,000ポンド（約2500万円）
2024年　規模拡大：６エリア各50,000ポンド（約9600万円）



グレーターロンドン32の主要な地方自治区域のうち約半数が申請

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

Night Time Enterprise Zone（ナイトタイム促進実験区）

WOOLWICH LATES
様々なアクティビティやイベントを夜間延長するシリーズ ～８pmまたは～10pm

※著作権等の都合上、取扱注意でお願い致します

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

主な論点の検討②

【主な論点】

● 海外諸都市との競争の中にあって
「**東京ならでは**」**のコンテンツ**をどう打ち出していくか

・行政が主導することで個々の事業者では難しい**インパクト**を打ち出す
・街と連携することで、**東京ならではの都市景観**や、**民間のアイデア/創造性**を打ち出す
・それらにより**経済効果、文化の活性化、人々の交流やシビックプライド**等を地域にもたらす

個々の事業者だけでは実現困難

▼

東京の夜を代表する都市を舞台とした文化の祭典

東京の夜を代表する都市を舞台とした文化の祭典

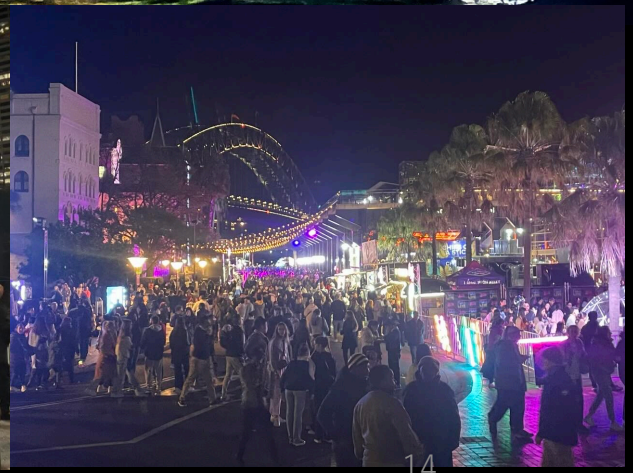
東京ではすでに多くのライトアップやプロジェクションマッピングを実施。大きな成果

さらなる魅力や価値創出のための今後の方向性は？

参考事例　VIVID Sydney

来場者数328万人(2023年)

・毎年シドニー市内で開催される世界最大級の光の祭典
・今年で15回目。開催期間は約3週間。
・主催はニューサウスウェールズ(NSW)州政府。
・2億610 万ドル観光収入(210億円の経済効果)
・参加者数は毎年増加しており、23年度は前年35%増。
・街中約60か所の会場を活用した8.5 kmのライトウォーク。
・参加者の81% が食べ物や飲み物を購入したと報告。



©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

（参考事例）Amsterdam & Partners

【主な論点】
豊富なコンテンツ**情報を旅行者へ的確に届ける**ためには、どのような取組が効果的か

・包括的なプロモーション
観光、ビジネス、文化イベントなどを通じてアムステルダムの魅力を国内外に広めることを目的として活動。地元の企業や団体、教育機関、政府機関とのパートナーシップを築き、共同でプロモーション活動を行う。

・官民一体の運営組織
民間企業と行政機関が50%ずつ出資して運営。出資企業には、観光業界、ホテル業界、文化施設など。行政側では、アムステルダム市役所や地域の観光局などが関与。定期的なミーティング等を通じて民間企業と行政機関が密にコミュニケーションを取り合い、共同でプロジェクトを実施。

・ブランディング・ツール『I Amsterdam』
Amsterdam & Partnersが行うアムステルダム市の公式シティマーケティング・ツール。ナイトライフに関しても積極的に発信。観光客だけでなく地元住民やビジネスコミュニティ、ナイトライフのプレーヤーも対象とし、”I”は誰もがアムステルダムの一部であることを示している。

Werner Kunz

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.

安心・安全の確保

（主な論点）地域の実情に応じた**旅行者の安全・安心の確保**に向けて、どのように取り組むべきか

・日本の**安全神話への懸念**
　ex.客引き、ぼったくり、外飲みに伴う酔客トラブル、ゴミ、青少年問題等
・店舗内での安心安全は事業主が管理可能。**問題は街中の安心安全。**
・**街として安心安全を確保する体制**が必要。
・従来、**警察と民間セキュリティ**が担ってきたが、課題に直面。

民間セキュリティの業務範囲	民間セキュリティの権限
・民間セキュリティの業務範囲は客引き防止など範囲が限定されるが、街の問題は様々。**実態に即して柔軟に対応**する必要あり。 ・民間セキュリティが、警備に加え、**観光情報の提供や清掃等も兼ねることで多様なニーズに対応**	・民間セキュリティは、問題行為に対して**逮捕等の権限行使ができず、公務執行妨害罪でも保護されず**、実効性が低い。 ・権限行使は警察に限定されるところ、**警察介入の必要性まではないが民間セキュリティが対応すべき場面**あり。

・地域団体が自主的に安心安全を図っていくための体制・財源
・民間セキュリティの権限強化と地域とのパートナーシップの構築
　ex.パープルフラッグ、BID等の制度的解決

©2024 Kana Ito, Japan Nighttime Economy Association. All Rights Reserved.